

都市再生整備計画 事後評価シート

三刀屋木次IC周辺地区

令和4年9月

島根県雲南市

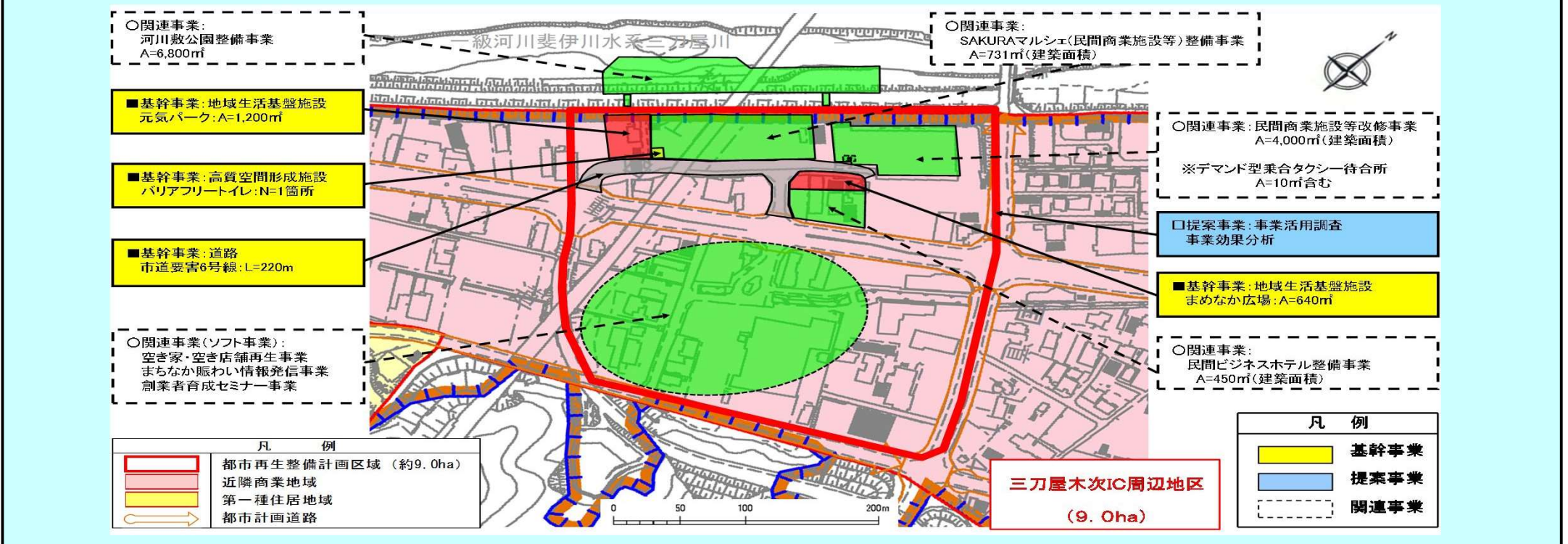
様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	島根県		市町村名	雲南市		地区名	三刀屋木次C周辺地区		面積	9.0ha			
交付期間	平成29年度～令和3年度		事後評価実施時期	令和3年度		交付対象事業費	434百万円 国費率 0.45						
1) 事業の実施状況	事業名												
	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	市道要害6号線、元気パーク、まめなか広場、バリアフリーレ										
		提案事業	事業効果分析										
	当初計画から削除した事業	基幹事業	遊歩道整備		元気パークの園内通路として整備することとなったため。			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響					
		提案事業	なし。										
	新たに追加した事業	基幹事業	なし。										
提案事業		なし。											
交付期間の変更	当初	平成29年度～令和3年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響									
	変更	平成 年度～ 年度											
2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標	単位	従前値	基準年度	目標値	数値	目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ			
	指標1	イベント(まめなか市)における年間入込客	人/年	5,800	平成27年度	10,000	令和3年度	1,974 (令和元年度)	1,974	×	あり	事後評価時点でまめなか広場の整備が完了であることから、会場の確保や日程調整に苦慮し、開催回数が目標開催回数(年5回)を下回っており、年間入込客も目標に達していない。	令和5年4月
	指標2	中心市街地の人口	人	2,051	平成27年度	2,094	令和3年度	1,943 (令和元年度)	2,007	△	あり	市全体で人口減少が進んでおり、本計画の事業のみでは目標まで人口を増加させることが困難であった。しかし、中心市街地の人口減少率は市全体の人口減少率に比べて緩やかであることは評価できる。	令和4年4月
	指標3	中心市街地の賑わい・交流の満足度	%	47.8	平成27年度	53.0	令和3年度	66.4 (令和1年)	61.1	○	あり	中心市街地の賑わい・交流の満足度は平成28年度に尾道松江線の全面開通や本事業外のハード整備によって大幅に向上した。その後も、SAKURAマルシェ(民間商業施設)整備事業による新規商業店舗建設や元気パーク、まめなか広場等の賑わい・交流空間の整備により、中心市街地に対する期待感が高まり、満足度が維持されている。	令和5年12月
	指標4	公共交通ネットワークの満足度	%	45.3	平成27年度	49.0	令和3年度	49.5 (令和1年)	51.7	○	あり	公共交通ネットワークの満足度は平成28年度に尾道松江線の全面開通や本事業外のハード整備によって大幅に向上した。その後も、公共交通の結節点である下熊谷バスセンターに近接する商業集積エリアの一体的整備が進み、また、民間商業施設前にテラス型集合テラス待合所が整備されたことにより、公共交通を利用しやすい環境が形成され、満足度が維持されている。	令和5年12月
	指標5										あり		
3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標	単位	従前値	基準年度	目標値	数値	目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ			
	その他の数値指標1	中心市街地の新規出店数	店舗	10	平成27年度		26 (令和1年)	28			あり	中心市街地に対する期待感の高まりや、商工会の独自の取組み等により新規出店数は順調に増加した。さらに、SAKURAマルシェ(民間商業施設)整備事業による新規商業店舗建設が令和元年7月に完成を迎え、これにより新規出店数が増加した。	令和4年4月
	その他の数値指標2												
	その他の数値指標3												
4) 定性的な効果発現状況	<p>IC周辺かつ、公共交通の結節点である下熊谷バスセンターに近接する利便性の高いエリアに中心市街地の賑わい拠点が整備された。</p> <p>・市道要害6号線の整備が完了し、商業集積エリアへのアクセスとしての安全性・利便性を高めている。</p> <p>・元気パーク整備事業はコリアパークとして令和元年12月に供用開始し、子どもから高齢者まで幅広い年代の憩い・交流の場として利用されている。</p> <p>・空き家・空き店舗再生事業では空き家・空き店舗情報の発信を行っている。令和2年度には木次駅前商店街に起業家のインキュベーションオフィス、コワーキングスペースとして利用できるオトナラボが開業され、交流人口の増加・新規出店の促進に寄与している。また、令和4年にはWeb広告会社が中心市街地の空き店舗にサテライトオフィスを開設予定であり、新たな雇用の創出と地域経済の発展につながるかと期待される。</p>												
5) 実施過程の評価	実施内容												
	モニタリング	中心市街地活性化基本計画の定期フォローアップ、及び、毎年実施する市民アンケートによるモニタリング				都市再生整備計画に記載し、実施できた				今後の対応方針等			
	住民参加プロセス	市と地域自主組織連絡協議会の共催による地域経営カレッジ				都市再生整備計画に記載し、実施できなかった				-			
	持続的なまちづくり体制の構築	地域特性に応じた市民と協働で進める魅力あるまちづくり				都市再生整備計画に記載し、実施できた				●			
		地域特性に応じた市民と協働で進める魅力あるまちづくり				都市再生整備計画に記載し、実施できなかった				●			
まちづくり会社(雲南都市開発株式会社)を中心とした今後のまちづくりの展開の検討				都市再生整備計画に記載し、実施できなかった				●					

様式2-2 地区の概要

三刀屋木次IC周辺地区(島根県雲南市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値				
大目標:賑わいと魅力あふれる市の顔づくりによる中心市街地の活性化 [目標1]都市基盤の整備により、中心市街地の核となるエリアの利便性と回遊性の向上を図る [目標2]イベント施設や宿泊施設整備により交流人口の拡大を図るとともに、賑わいの創出と商業施設への集客性向上を図る	イベント(まめなカー市)における年間入込客	単位:人/年	5,800	H27	10,000	R3	1,974	R2
	中心市街地の人口	単位:人	2,051	H27	2,094	R3	2,007	R3
	中心市街地の賑わい・交流の満足度	単位:%	47.8	H27	53.0	R3	61.1	R2
	公共交通ネットワークの満足度	単位:%	45.3	H27	49.0	R3	51.7	R2



まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> JR木次駅における木次線と市民バスとの接続は必ずしもよいとは言えず、JR利用の来訪者の中心市街地へのアクセス性が課題として残る。 まめな広場供用後には、当広場を活用して定期的にまめなカー市等のイベントを行うことが必要である。 デマンド型乗合タクシーの利用者世代でデマンド型乗合タクシーの「存在そのものを知らない」、「使い方がわからない」等の意見があり、継続的なPRが必要である。 ビジネスホテルと周辺施設が連携した魅力の創出が必要である。 ビジネスホテル開業後には、地域住民と来街者の交流を促す仕組みづくりが課題になる。
今後のまちづくりの方策 (改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> ハード整備により地区の基盤が整いつつあるため、今後は活用・運営(ソフト面)での工夫が必要。 市外への購買力の流出を抑制するため、定期的に市民の購買行動を調査し、改善策を検討する。 本事業で整備されたハードを活用し、中心市街地の魅力の発信に取組む。 市が実施している定住促進事業の情報発信を強化する。 デマンド型乗合タクシーの一層のPR強化を行う。 本事業で整備された公園や広場を活用し、地域住民とホテル宿泊者が交流できるイベントを実施する。